

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3610125381
法人名	医療法人 栄寿会
事業所名	グループホーム ひかる
所在地	徳島県徳島市名東町1丁目91 (電話)088-631-9111

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 6月 30日

【情報提供票より】(平成19年 6月 15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年 2月 21日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	22 人 常勤14人, 非常勤8人, 常勤換算1階3.6人, 2階6.8人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	--------------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000~54,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	420 円	昼食	660 円
	夕食	580 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(6月15日現在)

利用者人数	17名	男性	5名	女性	12名
要介護1	7名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 87.6歳	最低	73歳	最高	102歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	天満病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該事業所は、事業の目的に沿って、利用者が自由で自分らしく暮らすことを支援し、季節を感じながら穏やかに過ごせる空間を提供している。運営者、管理者、職員は、理念である「和顔愛語」の理念を、常に心に置き、絶えず優しい笑顔と態度で利用者として接している。また、利用者の希望や気持ちを汲んで、色々工夫を凝らして外出の機会を作り、暮らしに張りや喜びを作っている。職員の異動では、食事を作ることが出来る職員を配置され、1週間ごとにバランスに配慮した献立が立てられていた。利用者の安全な生活の確保ため、自動火災受信盤、火災感知器、スプリンクラー、消火用散水栓などの設備面が非常に充実している。医療連携体制加算の指定を受けており、24時間常に急変時等への対応が可能となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、改善期待事項はほとんど改善され、積極的な取り組みがされていた。市町村との連携については、ホームの実情や取り組みを伝えながら協力関係を築く取り組みが望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は、評価の意義をよく理解し、全員で自己評価に取り組んでいた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に関するパンフレットを作成し、理解を深めてもらうよう努め、現在では利用者や家族、地域からは自治会長、老人クラブ会長、民生委員、地域包括支援センターの参加を得て、2ヶ月に1回会議を開催している。事業所の運営や現状を説明したり、外部評価の報告などがなされ、ホームを知ってもらう取り組みがされていた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時には、職員が家族の意見や希望を聞くことに努め、意見が出たときには改善への対応をしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園や小学校と深い交流があり、度々、園児や児童の訪問を受けたり、運動会へ招待をされたりしている。また近隣の住民からは、畑の収穫物を貰うなど交流がある。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和顔愛語」の理念をかかげ、この理念を浸透させることで、職員と利用者、地域との良い関係づくりに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、常に理念について話し合い、利用者に対し、明るい笑顔と優しい声かけを実践している。また、年1回、理念についての勉強会が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの保育園や小学校と交流があり、折に触れて園児や児童の訪問を受けたり、運動会に招待されたりしている。また近隣の人たちから、季節の野菜や果物が提供されるなど交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は評価に前向きに取り組み、評価の意義や目的を職員に伝え、全員で取り組んでいる。また、評価の結果をサービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。運営推進会議への理解を求めるパンフレットを作成し、利用者や家族、自治会、地元老人クラブ、民生委員、地域包括支援センターなど幅広い参加を得て、グループホームを知ってもらうための取り組みがされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携の取り方に苦慮している。	○	市町村を積極的に訪問し、事業所の考え方や実情を市町村担当者に知ってもらおう事で、少しずつ関係づくりをしていくことが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が来訪した時には、職員が利用者の状態を伝えている。また「ひかるだより」を発行し、利用者の日頃の暮らしぶりや行事、職員の紹介、などを掲載して、家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営者、職員共に、機会あるごとに家族の意見や希望を聞くことに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者との職員の馴染みの関係を重視し、定期異動による職員の交替を最小限にとどめている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の研修に大変積極的である。毎月1回、内部研修を実施しており、研修内容は即実践に結びつく具体的な内容になっている。外部研修も積極的に順次受講している。	○	内部研修は、休みの職員も積極的に参加するなど、すべての職員に研修内容が伝わっているが、外部研修を受講した際にも、その研修内容を他の職員に報告する機会をつくることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは、積極的に情報交換を行い、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。また、職員の希望もあり、他の事業所に見学に行くこともされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族に事業所を見学してもらい、十分に納得してから入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の生活歴や経験を尊重し、お互いにわかり合える関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの中で、職員は利用者によく話し、本人の思いや希望を把握しており、本人本位の対応に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、職員全体で意見を出し合い、本人や家族の意見や要望を取り入れて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直しを行い、また本人の状態に合わせて、随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、看護師が配置されている。通院介助や送迎、重度化した場合の対応が柔軟に行なわれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の了解を得て、系列病院がかかりつけ医となっている。歯科、眼科等で、従来のかかりつけ医に通院する場合は、送迎も行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族等と相談し、方針を決めて同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の接し方の中に、本人の誇りやプライバシーに配慮した、声かけや心配りがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、せかさされたり制約を受けることは全くなく、自由に自分のペースでゆったりと過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も出来る部分を手伝いながら職員と共に食事の準備が進められ、ホーム内に料理の匂いが漂って、食事の時間が近づいた事が感じられる。食事は、利用者と職員と一緒に食べ、なごやかな雰囲気を感じられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の意見や希望を聞き、いつでも入浴することができるが、現在は、週3回、昼間に実施されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所の周辺の空間をうまく活用して、ミニトマトなどを栽培し、収穫する等の楽しみづくりをしたり、ホーム前の駐車場スペースでバーベキューをしたりしている。また、猫を飼っており、世話をしたり、利用者の癒しとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとに色々な花を見に出かけたり、市内周遊や阿波踊りの栈敷見学など、利用者の喜びや張り合いになるような外出を積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に鍵はかかかっておらず、自由な生活を支援している。居室においても、本人が外に出たり、中でくつろいだりされる場合には、本人の希望で施錠することもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	警察署や消防署の協力を得て、年2回の訓練を行っている。当面の非常食、水を常備している。火災感知器、スプリンクラー、消火用散水栓など、設備面が充実している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、定期的に管理栄養士によるチェックがなされている。昼間は、食堂にお茶とコップが用意されており、夜は居室に白湯が配られて、水分摂取に配慮されている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の大きなガラス窓の向こうには、緑の木々があり、そこから漏れる光が室内にそそいでいる。部屋にはさりげなく花が飾られ、全体が生活感のある居心地のいい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の好むものや使い慣れた物を持ち込んで、その人らしい部屋づくりに配慮されていた。		